

「やさしさを追い求めて」の  
ノウハウが生かされた寝浴タイプ



利用者の意見を取り入れ細かな配慮が施されている「車いす入浴装置」

株式会社 アマノ

## やさしい介護浴槽の草分け

日本で初めての介護用特殊浴槽を開発して売り出した。41年前のことである。開発したのは創業者の故・天野伸一さん。ホンダの創業者、故・本田宗一郎さんの生誕地と同じ天竜市（現浜松市）の出身で、自らもオートバイの販売修理をする技術者。フロンティア精神も旺盛だった。福祉施設で働く友人から「寝たきりのお年寄りが安心して入浴できる浴槽はできないか」という提案があった。自分の父親も寝たきりで、障害がある人の苦しさや介護する側の苦労をいつも目の当たりにしていた。

介助者の腰の負担をいかに軽くするか。開発のテーマだった。障害のある人を専用のストレッチャー（担架）に乗せて、浴槽に移し、昇降には手で回すハンドルを使った。「天野式特殊浴槽」と名付けた。そこ

から日本の特殊浴槽の歴史が始まった。伸一さんは軽トラックに製品を載せ、全国の福祉施設を回ってデモンストレーションした。使ってもらった施設から、問題点を出してもらい、次の製品に反映させて、改善を重ねた。その後、医療機器メーカーも特殊浴槽を売り出し、ライバルも登場したが、専門メーカーで1人1つの座を守っている。

「やさしさを追い求めて」が、創業以来のテーマ。2005年8月に死去した伸一さんの後継者として社長を務める長男天野哲夫さんも、そのテーマを引き継ぐ。「介助される人だけでなく、介助する人にもやさしい浴槽づくりがわれわれの使命。厳しい価格競争のなかで生き残るには、製品にオンリー・ワンの要素が欠かせない。そこがやさしさの見せどころ」

例えば車いすに座ったまま入浴できる「車いす入浴装置」。04年秋に業界に新風を送った。同社の製品は、最適な入浴姿勢を保つ車いすの角度や、浴槽の前面に機器パネルを置かず、入浴時に視線をさえぎるものをなくして開放感を出すといった、細かな配慮が評価されている。また寝浴タイプでも、楽な姿勢で介助できるよう、浴槽を上昇させるだけでなくストレッチャーを下降させて高さを調整する機種を開発するなど、蓄積した技術を細部に生かしている。

本社に近い豊田第二工場の入浴体験ショールーム。実際に入浴や操作をして、製品のやさしさを体感してもらう狙いで設置した。天野社長は「コスト優先ではないわが社の姿勢を、ここで理解してもらっている」と自信を見せる。



天野 哲夫 社長

取扱製品 病院・社会福祉施設の医療・省力化機器の開発・製造・販売  
資本金 2950万円  
従業員数 131人  
所在地 磐田市東名  
電話 0538(37)2811



使い勝手を徹底的に追求した製品が生み出されている



培った技術をベースに開発中の風力発電装置

旅客機のモデルなどユーザーの特別な注文にも応えている



## 株式会社 ジー エイチ クラフト 先端素材を駆使し独創的製品

「わが社は、お客さまがすでに完成した図面から成形加工や部品製作をすることは得意ではありません。いまだ世の中に存在しない、または世界の最前線で開発するようなモノで勝負しています」

自社のホームページで宣言しているこの言葉が、会社の姿を明快に説明している。木村學社長の創業。神奈川県茅ヶ崎市の海岸の松林に建てた小屋で、大学時代に魅せられたヨットづくりを始めた。27歳だった。「独創性があり、世界に通用する製品でなければ売り出す意味がない」と決めていた。

製品は2人乗りの競技用。「レースで勝てば、とにかく成功」の世界だった。自分たちで作ったヨットで、競技に参加して優劣を比較。欧米で開かれる世界選手権では、先々で選手交流や工場見学を

繰り返した。

船体は木造からFRP(グラスファイバー強化プラスチック)へと移り、1970年代には工業用材料で最も強く軽く高剛性の炭素繊維(カーボンファイバー)が登場。同社は日本の産業界に先駆けて、競技用ヨットに取り入れた。

ヨットでの企業成長に限界を感じ始めていたとき、大手自動車メーカーが、レース用車体の素材として炭素繊維に注目。初めて数千万円のプロジェクに恵まれた。それを機に本社を御殿場市に移転。

再開した日本チャレンジ・アメリカズ・カップでは構造設計から建造まで担当するチームを指揮、高い技術力を評価された。それを知った宇宙開発事業団(現・宇宙航空研究開発機構)からも声が掛かり、日本版スペースシャトルの機体の試作開発

にもかかわった。計画が凍結にならなければ、史上初の日本製機体が種子島を飛び立っていたはずだ。

「大企業がライセンス契約で海外の先端技術を導入していたころ、私はヨットというスポーツを通して、先端技術を早い時期に導入できた。スポーツには国境がない」と木村社長。世界の研究開発にアンテナを張り巡らせ、カーボンナノチューブなど先端材料技術への取り組みにも自信を見せる。

現在、初めての自社製品を開発中。直径5メートルの事業所用小型風力発電装置と空中作業ロボット航空機。本社近くに建設する生産工場は、50%以上のエネルギーを自給する21世紀のモデル工場を目指す。試作・開発メーカーとして発展してきた同社の新しい歩みだ。



木村 學 社長

取扱製品 先端複合材料を用いた各種機器試作開発  
資本金 1億円  
従業員数 47人  
所在地 御殿場市板妻  
電話 0550(89)8680



豊富な開発経験をもとに新たなものづくりが進んでいる